

# I 目的と方法



# 第1章 目的

## 1. 研究の背景

特別支援学校（視覚障害）は、その多くは各県1校の設置となっており、地域の視覚障害教育の核となり、自校における専門的で質の高い視覚障害教育を行うとともに、その専門性を基として、センター的機能を発揮しながら外部支援をさらに充実させていくことが求められていると考えられる。

当研究所では、そうした課題に関する研究に取り組んできたが<sup>(1)</sup><sup>(2)</sup><sup>(3)</sup>、特別支援学校（視覚障害）の専門性の重要な内容として、視覚障害教育固有の触覚教材、拡大教材、音声教材等の教材と、これらの作成教具や機器類に関する専門性、及び、これに基づく質の高い指導に関する専門性が必要であると考えられる。さらに、視覚障害児童生徒が在籍する地域の小・中学校等に対しても、この専門性による支援を行うことが求められていると考えられる。

ここで、視覚障害教育の分野は、こうした教材の作成・提供や使用において、ICTの活用が進んでいる分野であり、その活用による教材・教具及び機器類に関する専門性が重要であると考えられる。また、現在のICT等技術の進展状況をみれば、それに対応して、さらに新しく有効な教材・教具及び機器類と、それらを用いての指導についての情報を持ち、その使用・活用を進めていくことも重要と考えられる。

## 2. 研究の目的

以上のことを踏まえて、本研究では、以下のことを目的とする。

### （1）教材・教具及び機器類の保有状況及び使用・活用状況についての実態把握（教材・教具及び機器類に関わる地域支援の状況を含む）と課題への対応の検討

特別支援学校（視覚障害）の教材・教具及び機器類の保有状況及び使用・活用状況、その中でも特にICT活用によるものについて、その実態と課題を把握する。なお、ここでは、特別支援学校による、教材・教具及び機器類に関わる専門性に基づく地域支援の実態と課題の把握も行う。その上で、課題と考えられることについては、その対応を検討する。

### （2）最新のICT活用等の先進的な取組や既存の教材・教具及び機器類を用いての工夫された取組に関する事例の提示

最新のICT関連機器の活用等、先進的な取組をしている特別支援学校（視覚障害）や、既存の教材・教具及び機器類を使用しつつも、より有効な取組をしている特別支援学校（視覚障害）について、その状況についての知見を得て、事例として提示する。

### （３）新しい教材・教具及び機器類や既存のものの改良等に関する情報や活用方法等の提示

ICT等技術の進展状況から、今後、視覚障害教育において有効であると考えられる、新しい教材・教具及び機器類や、既存のものの改良や改善等について、それらに関する情報や活用方法等を示す。

### （４）教材・教具及び機器類に関する情報共有の在り方の検討

以上のような視覚障害教育に関わる教材・教具及び機器類に関して、点字データ、触図データ等、教材の電子データを含めて、必要な情報を特別支援学校（視覚障害）において共有することも重要なことであると考えられる。そこで、その情報共有の在り方についても検討する。

## 文献

- (1) 大内進, 新井千賀子, 金子健, 澤田真弓, 田中良広, 千田耕基, 牟田口辰己, 渡辺哲也 (2006). 課題別研究 (平成 15 年度～17 年度) 研究成果報告書 盲学校および弱視学級等における情報システムおよび地域ネットワークを活用した視覚障害教育にかかわる情報収集・提供の在り方に関する研究. 独立行政法人国立特殊教育総合研究所.
- (2) 田中良広, 千田耕基, 大内進, 澤田真弓, 金子健, 渡辺哲也, 土井幸輝 (2010). 専門研究 B (平成 20 年度～21 年度) 研究成果報告書 特別支援学校及び通常の学校に在籍する視覚障害のある児童生徒の教科指導の質の向上に関する研究. 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所.
- (3) 田中良広, 澤田真弓, 金子健, 大内進, 土井幸輝 (2012) 専門研究 B (平成 22 年度～23 年度) 研究成果報告書 小・中学校等に在籍している視覚障害のある児童生徒等に対する指導・支援に関する実際的研究. 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所.

## 第2章 方法

上記の研究の目的に対して、本研究では、以下の方法をとる。

### 1. 文献及び情報収集

視覚障害教育における、教材・教具及び機器類と、その活用や指導法、地域支援等に関する、これまで当研究所で行った関連研究を含む文献を収集し、分析する。また、研究協力機関等とも協議を行い、それらに関する知見や情報を得る。

### 2. 全国実態調査の実施

特別支援学校（視覚障害）の、ICTを含む教材・教具及び機器類の保有状況と活用状況に関する実態と課題についての全国調査を行う。この調査には、教材・教具及び機器類に関する地域支援の実態と課題も含める。

その調査項目や質問内容、調査方法の選定に当たっては、上記の文献の分析や、研究協力機関からの情報等に基づいて、選定する。

この調査では、特に、次の諸点を取り上げる。

①各学校において、ア. 保有している教材・教具及び機器類とともに、保有していないが必要であると考える教材・教具及び機器類 イ. 保有はしているが、使用や活用が進んでいないと考える教材・教具及び機器類 ウ. あればよいと考える教材・教具及び機器類や既存の教材・教具及び機器類の改良点 エ. 最新のICT関連機器活用等、教材・教具及び機器類の活用に関する先進的な取組や、既存の教材・教具及び機器類を使用しつつも有効、あるいは特色ある取組

②地域支援において、必要であると考えるが、あまり支援を行っていない教材・教具及び機器類

### 3. 学校訪問調査の実施

上記の実態調査等に基づき、最新のICT関連機器活用等、教材・教具及び機器類の活用に関する先進的な取組や、既存の教材・教具及び機器類を使用しつつも有効、あるいは特色ある取組をしている学校について、訪問調査を実施し、事例を収集する。

### 4. 有効であると考えられる教材・教具及び機器類に関する情報収集と検討

視覚障害教育分野で、ICT等技術の進展状況により、今後、有効であると考えられる、新しい教材・教具及び機器類や、既存の教材・教具及び機器類の改良等について、これまでの当研究所での取組をはじめ、文献や研究協力機関からの情報等、さらに上記の全国実態調査と訪問調査の結果に基づき、本研究で取り上げるべき教材・教具及び機器類について検討のうえ、それらの教材・教具及び機器類として、いくつかのもの

のを取り上げ、その概要や意義と視覚障害教育における活用について検討する。

## **5. 教材・教具及び機器類に関する情報共有についての国内外の状況の把握と検討**

特別支援学校（視覚障害）における、点字データ、触図データ等、教材の電子データを含めての、視覚障害教育に関わる教材・教具及び機器類に関する情報共有の在り方について、上記の全国実態調査や訪問調査の結果からの知見と、国内外の視覚障害教育に関わる情報ネットワークの状況の把握等によって検討する。

以下の各部各章では、上記の目的、方法に対応して次のことについて述べる。

## **Ⅱ 結果**

### **第1章 教材・教具及び機器類の保有状況・活用状況等調査**

「(1) 教材・教具及び機器類の保有状況及び使用・活用状況についての実態把握（教材・教具及び機器類に関わる地域支援の状況を含む）と課題への対応の検討」のうち、実態把握の部分について述べる。

### **第2章 教材・教具及び機器類活用の学校事例**

「(2) 最新の ICT 活用等の先進的な取組や既存の教材・教具及び機器類を用いての工夫された取組に関する事例の提示」について、その事例を提示する。

### **第3章 有効と考えられる教材・教具及び機器類**

「(3) 新しい教材・教具及び機器類や既存のものの改良等に関する情報や活用方法等の提示」について、その情報や活用方法等を提示する。

### **第4章 教材・教具及び機器類に関する情報共有**

「(4) 教材・教具及び機器類に関する情報共有の在り方の検討」について、方法の「5. 教材・教具及び機器類に関する情報共有についての国内外の状況の把握と検討」で述べた内容のうち、上記の全国実態調査や訪問調査の結果からの知見と、国内外の視覚障害教育に関わる情報ネットワークの状況の把握等に対応する部分に関して述べる。

## **Ⅲ 総合考察**

「(1) 教材・教具及び機器類の保有状況及び使用・活用状況についての実態把握（教材・教具及び機器類に関わる地域支援の状況を含む）と課題への対応の検討」のうち、

課題への対応に関する部分について、本研究全体の結果を基にして述べる。

また、「(4) 教材・教具及び機器類に関する情報共有の在り方の検討」について、その在り方に関して、同様に、本研究全体の結果を基にして述べる。

